

新和楽荘

ビタミンC

第45号

平成20年11月1日発行



新和楽荘は、
9月12日に敬老会を行いました。
第1部式典では、全員で荘歌を歌い、
第2部の演芸大会では、カラオケや
出し物で大いに盛り上がりました。



萩の里は、
7名の方が数えて100歳以上を
お迎えになられました。
敬老会では、スタッフ手作りの
お祝いTシャツなどを記念に
プレゼントさせていただきました。



100歳になられた、
竹内おつね様です。
小川の里でお元気に
過ごされていらっしゃいます。
内閣総理大臣から祝状をいただき
ご家族といっしょに記念写真です。



小白川にお住まいの
長谷川きみ子様です。
いつまでもお元気で
いてくださいね。

白川村デイサービスセンターしゃくなげ荘発 「岐阜と富山の豪雪県境で頑張ってるぞー」

おひとりの
笑顔に会いたくて、
今日もご送迎
120キロ

法人内最北で日帰りサービスを守る「白川村デイサービスセンターしゃくなげ荘」。
ここでは、岐阜県下最強と自称するご送迎チームの紹介をさせていただきます。



ご利用者宅の玄関先で
屋根の雪が「どさっ！」
スタッフの頭「真っ白け〜」
なんてことは、しばしば…。

「3月でも雪はあります。
ご利用者の頭へ軒の雪が落ちないように、
最新の注意を払います。」

ご送迎中、スリッパ。「動かない！」
溝にはまった車輛を重機で
引っ張っていただくことも、トホホ…。

白川村の最北端の地名は、
「小白川(こじらかわ)」といます。
その小白川にお住まいの方が
最も遠方のご利用者になります。



小白川へは、国道156号線を北上し、
岐阜県と富山県を出入りする県境を
入組んだ道を抜け到着します。一日
のご送迎(二往復)距離は、なんと
120km!!一往復に要する時間は、夏の
時季で1時間15分ほど、冬の時期は、
雪に慣れた私どもでさえ2時間かか
ることもあります。

ここでひとつ ~よもやばなし~

白川村と隣接する富山県南砺市に五箇山という地域があります。白川村同様、世界的にみても有数の豪雪地域で、合掌集落があり世界遺産に指定されています。五箇山は、民謡の宝庫としても知られ、その民謡は口頭伝承によって何世代にも渡り唄い踊り継がれ、風土と共に発展しています。当地では、秋祭りに合わせ「こきりこ祭り」が毎年催され、五箇山は民謡一色に染め上がります。



※「こきりこ」とは、「筑子」、「小切子」とも書き、二本の竹で作った簡素な楽器の名前に由来していると言われています。



事業所紹介

「写真では、ちょっと緊張していますが、
いつも笑顔の絶えないスタッフが
お待ちしております。」

車内でもホール同様に盛り上げるのが、
我々「しゃくなげ荘 デイサービスチーム」です。
道中でご一緒になった方々と一緒に、
車内はご利用者とスタッフの親密な時間が流れます。

平成20年度上半期 おもいで便り

8月



萩の里より

夏祭りでは、新和楽荘のファミリーと合同で、鳴子を披露しました。会場は、拍手喝采。



あいふるの里より

夏祭り名物の盆踊りです。ファミリーと一緒に楽しく踊りました。

4月



萩の里より

ご家族の皆様と一緒に一宮市萬葉公園でお花見をしました。家族交流もでき、楽しい一日でした。



小川の里より

西尾市ハツ面山公園へお花見に出かけました。日も良く風も穏やかで、遊歩道の桜並木がとても綺麗でした。

9月



萩の里より

敬老会では、ふれあい芸能グループの皆様によるコンサートが行なわれ、懐かしい歌など、楽しいひと時をプレゼントしていただきました。



風の苑マグノリアより

開所初の敬老会です。地域の皆様がお祝いにお越しくださいました。

5月



あいふるの里より

数年続いた雨の開所記念祭が、今年は天気がもち屋外で開催することができました。



萩の里より

手作りのお弁当を持って、一宮市浅井山公園へピクニックに行きました。いつもとは違った雰囲気の中で食べるお弁当は最高です。

10月



新和楽荘より

白川郷へ泊旅行に出掛けました。絶景の景色と朴葉味噌・そば・山菜等々、心もお腹も大満足です。



瀬音さくら山荘より

白山スーパー林道へドライブ。晴天の下、紅葉を満喫してきました。

6月



小川の里より

蒲郡市あじさいの里へ出掛けました。日本一といわれる見事なあじさい園でした。



新和楽荘より

清州市麒麟ビール工場へ遠足に出掛けました。搾りたてのビールに舌鼓。

下半期行事予定

| | あいふるの里 | 萩の里 | 小川の里 | 新和楽荘 | 瀬音さくら山荘 | 風の苑マグノリア |
|-----|-------------------------|-------------------------|------------------------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|
| 11月 | 9日 秋祭り | 1日 文化祭 | 7日 紅葉狩り | 1日 文化祭 12日 菊祭り | 5日 紅葉バスピクニック | 5日 紅葉狩り |
| 12月 | 14日 クリスマス会 26日 餅つき納会 | 12日 クリスマス会 27日 餅つき納会 | 21日 クリスマス会 26日 餅つき納会 | 12日 クリスマス会 27日 餅つき納会 | 24日 クリスマス会 28日 餅つき納会 | 28日 忘年会 |
| 1月 | 1日 新春福笑い | 16日 新春お茶会 | 2日 初詣(小川神社) 27日 新春安全長寿祈願祭 | 1日 新年祝賀会 4日 新年ひまわり会 | 2日 春 駒 | 7日 初詣 |
| 2月 | 1日 節分 25日 桃祭り | 3日 節分 | 3日 節分 14日 パンタイム会 | 3日 節分 20日 温泉旅行 | 3日 節分 | 1日 節分 18日 アニマルセラピー |
| 3月 | 4日 供養祭 | 3日 ひな祭り | 3日 ひな祭り 18日 お花見 | 3日 ひな祭り 12日 いちご狩り | 3日 ひな祭り 18日 供養祭 | 4日 鍋祭り 18日 真田神社・袴外出 |

7月



新和楽荘より

七夕会のひとコマです。フラダンスや流しそうめんなどのイベントで盛り上がりしました。



瀬音さくら山荘より

清流・庄川のせせらぎを聞きながら、木陰で流しそうめんを楽しみました。

※行事日程は、都合により変更することがありますので、日程等につきましては、事前にご確認願います。

日々、私たちを優しく見守る“観音菩薩”たち

お釈迦さまは、「人生は苦なり」と仰った。「苦」とは「思い通りにならないこと」であり、即ち「人生は思い通りにならない」という意味になる。

思い通りになると思っていたのだが、そうはいかない。奇跡は起こらないのが人の世。起こりえたこと全ては、「縁」である。

人生全てのことを「縁」とみることでできる時、人生を受け入れることができる。過去や今の自分が「縁」ならば、これから先の自分も「縁」である。そこに勇気づけるものがある。

それぞれの施設にゆかりのある方々の幸せと安全を願って建立開眼されました。



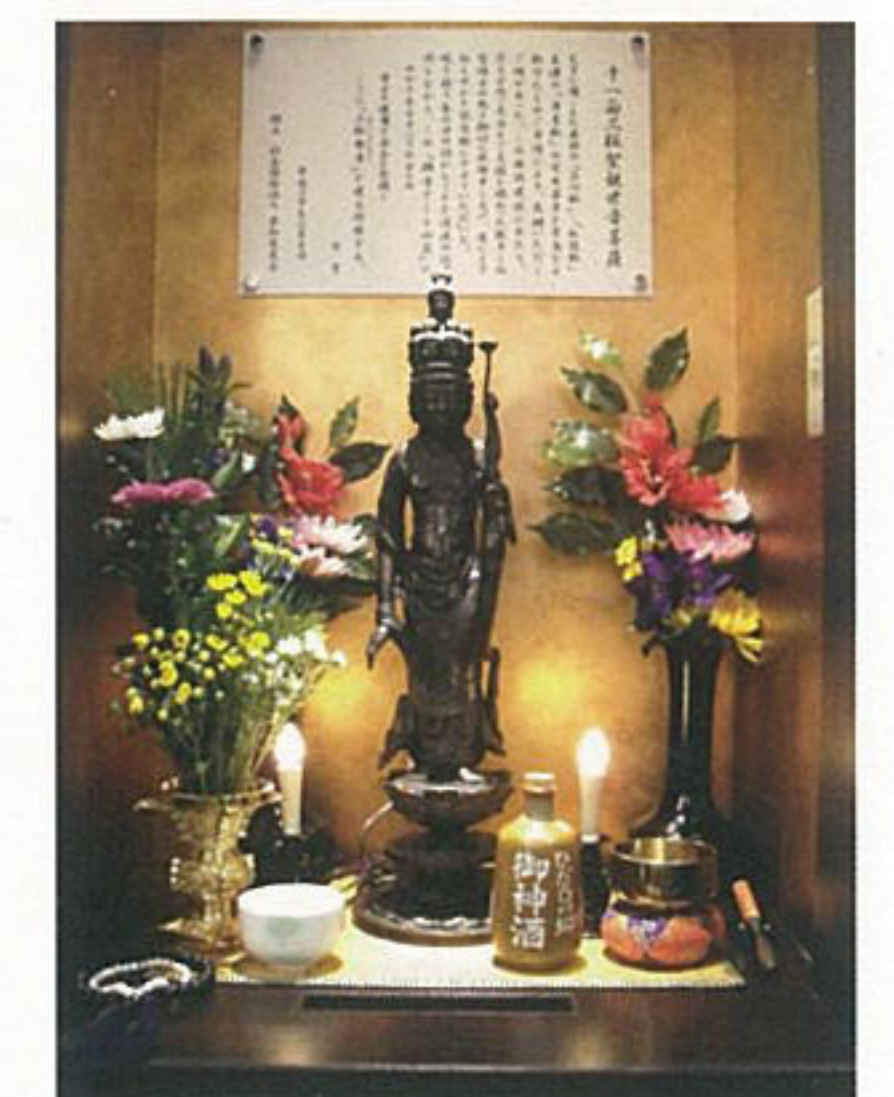
三松観音(小川の里)



龍乗観音(萩の里)



三笠観音(あいふるの里)



三桜観音(瀬音さくら山荘)



慈光観音(新和楽荘)



昭和11年より70年に亘り安らぎを与え続けてくださいます。(新和楽荘)



三峯観音(新和楽荘)

今昔物語

第5回

ここでは、「今昔物語」と題しまして、ご利用者の歩まれた様々な人生にスポットを当て、若かりし頃の思い出や、現在の生活を語っていただきます。今回は、瀬音さくら山荘のご利用者、鈴口正夫さまにお話を伺いました。



鈴口正夫さんは、大正8年に岐阜県白川村でお生まれになり、今年で89歳になります。幼いころは身体が弱く、両親に大切に育て

られたそうです。郷土校高等科、青年学校を出て、21歳の年に徴兵で中国、フィリピンへ進み、ベトナムで終戦を迎えました。

終戦後は白川村へ戻り、農林業兼土木業に従事し、トラックを買い木材の運搬を生業にされてきました。

子供の頃の思い出として、「どぶろく祭り」のお話をしてくださいました。いつ頃からどぶろく祭りはあるのですか?とお訊ねすると、「分かんない。オイが子供の頃からあった。どぶろくは、その年によっては酸い酒やとても飲めん

酒もあつた。今の酒はうまい。」と笑顔で答えてくださいました。

今でも鈴口さんは毎日の晩酌を欠かしません。喉を鳴らしても美味しそうに飲まれます。「オイはどんな病気も酒で治してきた。」と笑いながら仰います。酒が進むとお得意の民謡「こだいじん(萩町)」を歌われ、いつも場の雰囲気なをなごませてくれます。

娘さんのお話では、どぶろく祭り以外にも、民謡保存会などで、民謡や三味線などをご披露されておられたそうで、特に尺八の腕前は白川村随一だったそうです。「何でもこなす多才な人なんです。先日、昔の父をよく知る方に、オート三輪を白川村で初めて乗ったのが父であつたと聞きました。かっこ良かったそうです。」

週末になると息子さんがオリジナルブレンドのお酒を持って来ます。

鈴口さんの健康の秘訣は、お酒です。



鈴口さんと同じ年に生まれた有名な漫画家 やなせたかし

1919年(大正8年)、高知県に生まれる。東京高等工芸学校図案科(現千葉大学工学部)卒業。1941年に徴兵され中国へ行く。終戦後は帰国し、高知新聞の記者、三越宣伝部のグラフィックデザイナーを経て、漫画家となる。主に児童文学を手掛け、アンパンマンの生みの親として知られる。アンパンマンの原型作品は、1968年大人向け雑誌に掲載された。この時は頭部も普通の人間で、空腹の人へパン粉を届けるという話であった。1973年、これを発展させたキャラクターとしてアンパンマンが誕生した。

※どぶろくの由来

どぶろくは、明治以前までは自由に醸造してきたものである。ことに白川村のような山深い地域において、酒は購入することさえきわめて困難であり、どぶろくは神事のみならず、生活の一部として親しまれてきた。参考文献「白川村史 下巻」

激動の昭和史

シリーズ

第3回 昭和の流行語

| | 流行語 | 流行した背景や語意 |
|------|----------------|--|
| 昭和元年 | | 12月25日に大正天皇が崩御し、元年は7日間しかなかった。 |
| 2年 | モガ・モボ | モダンガール・モダンボーイの略。西洋文化が進み、当時の若い男女の外見上の特徴をこう呼んだ。 |
| 3年 | 昭和維新 | 国家革新の標語。代表的な事柄として、後の五・一五事件、二・二六事件が挙げられる。 |
| 4年 | 大学は出たけど | 小津安二郎監督作品。不況の中、職に就けない男が奔走するさまをコメディ・タッチで描いた作品。 |
| 5年 | 銀ブラ | 銀座を散歩すること。震災復興した当時の銀座にはデパート等が立ち並び、人々の憧れとなった。 |
| 6年 | アメション | 「アメリカへ小便しに行った」の略。当時の西洋文化に対し、冷やかしている言葉。 |
| 7年 | 問答無用 | 問答無用/5月15日に起こった五・一五事件での犬養首相と襲撃者とのやりとりの中の一言。 |
| 8年 | ナンセンス | たわいもない話の意。後に学生集会などで相手の意見を排除するときに使われるようになった。 |
| 9年 | 開襟シャツ | 明治時代初期に日本に持ち込まれ、文明開化の名の下に洋装の導入が進んだ。 |
| 10年 | オフィス・ワيف | 女性秘書のこと。女性の新しい職業として注目された。 |
| 11年 | 今からでも遅くない | 戒厳司令部が反乱軍に帰順を促すラジオ放送での一言。 |
| 12年 | 馬鹿は死ななきゃ治らない | 広沢虎造さんの浪曲「森の石松」にある名文句。 |
| 13年 | 大陸の花嫁 | 満州の開拓農民の花嫁として大陸に向かう女性のこと。満州移住協会が独身男性のために花嫁を募集した。 |
| 14年 | 日の丸弁当 | ご飯の中央に梅干を1つ置いた質素な弁当。兵隊の苦労をしのび感謝の意を表そうと強制された。 |
| 15年 | 一億一心 | 日本人口が1億人に達しようという時で、国民が心を合わせて1つになって戦争を遂行しようという檄。 |
| 16年 | ニイタカヤマノボレ | 12月8日午前0時をもって対米英開戦を伝える日本海軍の暗号。 |
| 17年 | イエスカノーか | 第25軍司令官山下奉文中将が机をたたいて、「イエス」か「ノー」か?と、決断を迫ったとされる。 |
| 18年 | 玉砕 | 日本前線基地が置かれたアッツ島に米軍が上陸し、5月23日に玉砕の命令が出された。 |
| 19年 | 松根油 | 「しょうこんゆ」と読む。松の切り株を乾溜して得られる油状の液体。太平洋戦争中の航空機の燃料。 |
| 20年 | 堪え難きを堪え忍び難きを忍び | 堪え難きを堪え忍び難きを忍び/8月15日、昭和天皇の終戦の声明。その中の一説。 |
| 21年 | チャリンコ | 少年スリのこと。今では自転車の意味として使われる。 |
| 22年 | ご名答 | 「和田信賢」さん。クイズ番組「話しの泉」での言葉。 |
| 23年 | ノルマ | 各個人に割り当てられた労働の基準量を表す言葉。日本兵が復員して話しをしたことから。 |
| 24年 | アジャパー | 伴淳三郎さんが浅草の軽喜劇で「あら、まあ」と驚いた時に使った言葉。 |
| 25年 | つまみ食い | 公金横領事件に際して「あれくらいは女中のつまみ食い」と方言。汚職の別名となり流行した。 |
| 26年 | GI刈り | 朝鮮戦争の米兵達の間で流行した頭の刈り方で日本の若者の間でも流行った。 |
| 27年 | 見てみてみ 聞いてみてみ | 中田ダイマル・ラケットさんが朝日放送の街頭録音での司会で使った言葉。 |
| 28年 | おこんばんは | トニー谷さんがそろばんを片手に軽妙な話術と独特な話し方で一斉を風靡した。 |
| 29年 | シャネルの5番 | マリリンモンローが来日記者会見で記者からの質問に微笑んで答えたことから流行語になった。 |
| 30年 | 三種の神器 | 電気冷蔵庫、電気洗濯機、テレビのこと。主婦のあこがれだった。 |
| 31年 | もはや戦後ではない | 中野好夫さんの文芸春秋2月号に書いたエッセイの題。経済白書でも使われ流行した。 |

スタッフ募集

只今、スタッフを募集しております!!

■お問い合わせ

あいふるの里 TEL:0586-78-8441 (総務)

萩の里 TEL:0586-68-7311 (総務)

小川の里 TEL:0566-73-7011 (総務)

新和楽荘 TEL:0586-67-2311 (総務)

瀬音さくら山荘 TEL:05769-5-2141 (総務)

風の苑 マグノリア TEL:0586-47-6811 (総務)

介護スタッフ
看護スタッフ
ホームヘルパー
夜勤スタッフ



■詳しくはホームページ

愛知慈恵会

検索

へGO!!